

新種のコノプシス

長岡 求

花葉会ツアー2016年度は7月11日から19日までの9日間、中国四川省の西北部に広がる東チベットに行きました。当初は花博にあわせてトルコ行きを計画したのですが、シリア紛争の激化などの影響を受けて治安が悪化し、断念して中国を選びました。7月11日にはトルコで軍事クーデター未遂が発生し、胸をなでおろしました。

四川省の省都は成都市です。その西方には中国で2番目の標高を誇る貢嘎山／ミニヤコンカ（標高7,556m）があり、その北側に個性的な山並みで知られる四姑娘山／スーグーニャンシャン（最高峰は幺妹山／ヤオメイシャン、標高6,250m）があります。パンダの生息地として世界自然遺産に登録されています。今回は四姑娘山を回るようにバスを走らせ、その麓の日隆／リロン（標高3,100m）に3泊、貢嘎山の登山口として知られる康定／カンディン（標高2,700m）に2泊し、移動途中の峠や宿泊地の周辺に出かけて植物観察をしました。森林限界は3,000～3,500mほどにあるらしく、植物観察をした場所は多くが4,000m前後の標高があり、草原が広がる場所でした。コースの詳細は私の同期生の高野恵子さんがまとめていますので、そちらをお読みください。

花葉会ツアーでは2005年に昆明から麗江に入り、玉龍雪山など、チベットの名勝地を訪れましたが、そのエリアに比べると今回訪問した東チベットは雨量が多らしく、日本でも馴染みのあるシオガマガクの仲間 (*Pedicularis*) やサクラソウの仲間 (*Primula*) が混じる花いっぱい草原は麗江周辺の風景よりはるかに艶やかでした。特に多くの種類が見られたのは *Pedicularis*、*Primula* に加えて *Saxifraga*、*Meconopsis*、*Gentiana*、*Corydalis*、*Ligularia* です。これらはもともと中国に分布する種数が多く、類似種も多いなど、種の同定はこれまでにないほど苦労しました。

表紙の写真はその中の一つ、メコノプシス *Meconopsis* です。メコノプシスの花は山中にいた5日間のいずれの場所でも見ることができました。特にブルー系の種

類をあちこちで目にしました。後に調べると4種1変種の合計5種類に出会ったのですが、自生地のそれは変異が大きく、もっと多くの種があったように思え、ご案内いただいた四川大学の白准教授にも7種類の学名をお教えいただきました。表紙に選んだのは針状の硬い毛が目立つ様子から *M. horridula*? といわれ、所々に柔らかな毛をもつ個体もあり、それは *M. racemosa* だろうといわれました。帰国後、写真を見ながら学名を調べたのですが、明確に判断できず、最終的に Flora of China にある検索表に当たりました。それによると針状毛をもつものはすべてが *M. rudis* になったのですが、*M. balangensis* var. *atrata* と地元の専門家が同定した表紙の種類も *M. rudis* となりました。そもそも *M. balangensis* は検索表になく、帰国後に調べると2011年に研究家の吉田外司夫先生などが命名、公表した新種でした。そこで、*M. rudis* と *M. balangensis* の違いを調べべく文献に当たりました。それによると、*M. balangensis* は雄しべが2つのグループに分かれ、内側の一群は花糸が肥大して子房を包むように位置するという、メコノプシスには極めて珍しい特徴をもつことが判明しました。自生地の Balang Shan (巴朗山) にちなんで命名されたのが *M. balangensis* で、私たちが訪れ、写真を撮ったのもその巴朗山です。写真をチェックすると *M. rudis* も *M. racemosa* もなく、写真はすべてが *M. balangensis* でした。

そして、表紙の *M. balangensis* var. *atrata* は Jiajin Shan (夾金山) の南斜面の狭いエリアに育つ変種で、この写真もそこで撮影されたものです。